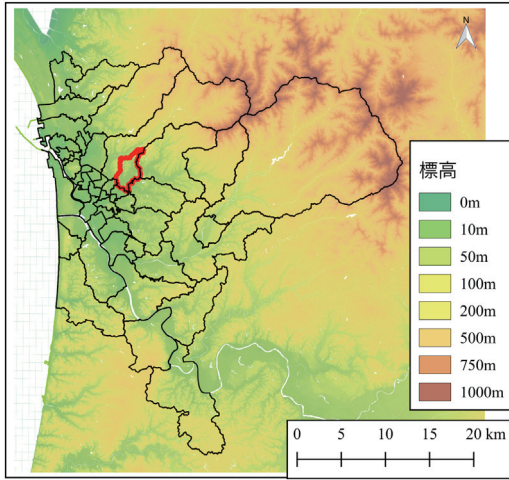


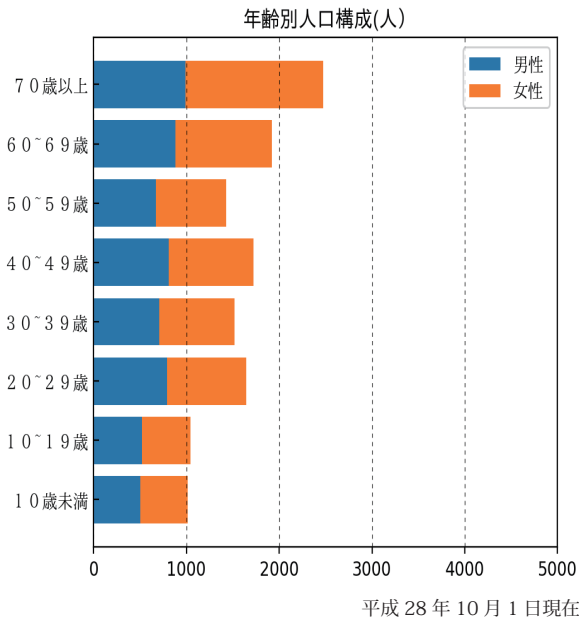
12：広面小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	12,756 人
世帯数	6,307 世帯
65 歳以上人口	3,521 人
10 歳未満人口	1,010 人



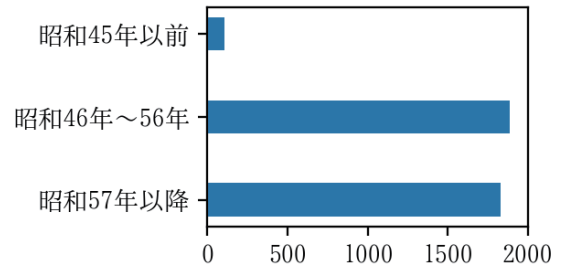
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	3826
非木造建物	539

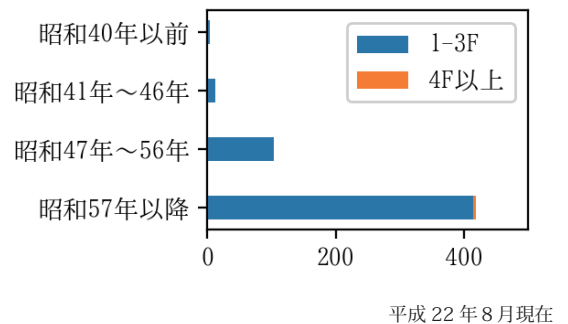
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,833
昭和46年～56年	1,886
昭和45年以前	107



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	415	4
昭和47年～56年	104	0
昭和41年～46年	12	0
昭和40年以前	4	0



自然的・社会的基本指標

手形山の東側の南北に長い地域である。中南部は平坦な地形であり、主要な施設や建物が集中している。北側は山地である。1983年日本海中部地震では、南部の低地部の一部で液状化が発生した。20歳代～50歳代の人口が均衡した分布構成となっている。65歳以上の高齢者層は、全体の約28%である。昭和57年以降に築造された非木造建物が全建物の約1割強を占める。昭和57年以降の建物は全体の52%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	太平川		
浸水面積 (%)	7.2		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	13	手形山北町、手形山東町、鳥越、手形山中町、蟹沢、堤敷、広面推子蛇野、赤沼、推子 他
土石流危険渓流	14	鳥越沢、手形山北町沢、近藤沢、蛇野沢 他
地すべり危険箇所	1	手形山
なだれ危険箇所	11	推子、赤沼、広面字蟹沢、手形山中町、近藤沢、柳田字鳥越 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	22	鳥越沢、鳥越沢 2、手形山北町沢、柳田沢 5、6、近藤沢 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.85)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	33	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	8.3	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	11
婦人幼児支援	3
障がい者等支援	15

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	4
こども園	0
幼稚園	1

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	4

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	1
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	129
防火水槽 (箇所)	12
消防車台数 (台)	6
消防ポンプ数 (台)	2
消防団員数 (人)	52

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	3
土砂災害	2
地震	3
津波	0
福祉避難所	6
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	15
最寄りの救急告示病院	秋田大学医学部附属病院
自主防災組織数	14

自然災害時の危険要素

学校区の東部を流れる太平川に沿って浸水が想定されている。

学校区西半の丘陵部では土砂災害の発生が懸念されており、警戒区域等が 22 箇所 (急傾斜 16 箇所、土石流 6 箇所) に指定を受けているほか、危険箇所も多い。

学校区の中央部を占める平地部では、その周辺の丘陵部に比べてやや強い揺れ方となる可能性がある。津波による浸水の可能性は極めて低い。

防災上の課題と対策

1983 年日本海中部地震では、学校区の南部で液状化が発生していることから、今後も大地震の際には液状化の発生が懸念される。

木造建物のほぼ半数が旧耐震建築物であり、地震時にはかなりの建物被害と人的被害の発生するものと予測される。避難所の収容可能人員は、全人口の約 4% であり、避難者

を収容しきれないおそれがある。
 手形山地区には造成・開発により団地が形成されているが、
 土砂災害の危険性が懸念されることから、避難経路等の選
 定には注意が必要である。
 人口の年齢構成は比較的偏りのない構成となっているもの

の、学校区内には災害時要支援者施設も多いこともあり、
 住民相互の協力が一層期待されるところである。正しい防
 災知識並びに防災関連情報の周知・意識高揚と、住民によ
 る日常の防災訓練等の防災活動への支援が必要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
東部市民サービスセンター	○	○	○	○	x	x	157人
広面小学校グラウンド	x	○	x	○	x	x	5,715人
広面小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	347人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
本道の街 ショートステイセンター	柳田字川崎 138	018-884-7725
本道の街 デイサービスセンター	柳田字川崎 138	018-884-7726
本道の街ゆったり館	柳田字川崎 138	018-884-7727
ふきのとう	柳田字竹生 168-1	018-834-2577
竹生寮ぱれっとハウス	柳田字竹生 168	018-834-2577
柳田新生寮	柳田字竹生 197	018-835-3371

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

